

# 第14回 桃太郎カップ水球 【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター

【2021/12/27】

## 男子3位決定戦

滋賀県選抜

7

2	—	2
1	—	3
2	—	3
2	—	3

11 岡山県選抜

PSO

中 哲朗

審判:

太田 一誠

滋賀県選抜	30	SH数	24	岡山県選抜
	9	速攻数	3	
	11	ST・SB	8	
	6	SH・P誘発アシスト	10	
	31%	GK阻止率	63%	
10	EX反則数	5		

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

## 【試合の流れ】

これまでにはない対戦カードの3位決定戦。岡山は第3回大会での優勝以来の上位戦、対する滋賀は初の上位戦で、チームカラーも似通ったところがあり、シュートの決定率が勝負を分ける展開が予想される。

1P

試合開始早々に岡山は退水攻撃のチャンスを得たが、そこを決められず、逆にその退水シュートミスで滋賀がついて、三輪がセンターシュートを決めて先制。その後も岡山の退水攻撃がきまらない展開のスタートとなった。岡山は滋賀のシュートをGK小高がセーブし、そこを起点に前線で斎藤がペナルティを誘発して、自身が決めて同点に追いつく。その直後、滋賀は伊藤が角度のないところからシュートを決めるが、岡山も熊谷が6mシュートを決め、滋賀2-2岡山という互角の展開で第1ピリオドを終えた。滋賀のシュート7本はすべてゴール枠をとらえていたが、GK守備範囲で防がれ、それを起点に2失点。この展開が今後に影響していくことに。

2P

お互いのディフェンスには甘さもあって、双方ともシュートまでは容易に展開できる試合出たが、このピリオド最初だけは岡山のディフェンスが機能し、滋賀がオーバータイム。そこから速攻を岡山が仕掛けて春名が決めて岡山がリードを奪った。その後は決め手を欠いたラリーとなったが、滋賀が退水攻撃で打ったシュートをGK小高が止め、そこから逆に岡山が退水を誘発して原が決めて2点差。ここでも滋賀のシュートがセーブされてからのパターンとなった。滋賀も退水攻撃で桐畑が決めて1点差に詰めるが、その直後にまた岡山が退水攻撃を原が決め、滋賀3-5岡山と2点差で前半を終えた。

3P

ここまでの滋賀のシュートはゴール枠をとらえていたが、第3ピリオドでは外れるシュートが増え、ピリオド序盤はそうしたシュートミスを突かれてペナルティ、センターシュートと2失点して4点差。その後は退水攻撃で上坂が取り返すが、またしても滋賀のシュートをGKがとめたことを起点にした退水攻撃で岡山はタイムアウトを取って決めてまた4点差。結局、滋賀5-8岡山で最終ピリオドへ。

4P

前半は長いラリーとなった。シュートにまでは持ち込めるものの、決定力が不足して突破できない展開が続いたが、滋賀が3:28に退水シュートを三輪が決めて2点差に詰め寄った。しかしその直後に、岡山の原にセンターと退水を決められ、残り2分を切ったの4点差。ここでほぼ勝負が決した形となり、滋賀7-11岡山で、岡山が第3位、滋賀が第4位となった。

## 【プレー分析から】

勝負の分岐点はシュート決定率という戦前の予想通り、お互いにシュート本数は多いがその精度、あるいはGKのセーブが決め手になるという展開で、岡山GK小高が高いシュート阻止率(セーブ)をあげ、そのことが多くの攻撃起点となった。逆に言えば、滋賀は「打たされたシュート」ということになり、そこからの失点の多さにつながってしまった(11失点中7点がシュートミスやセーブ)。特に第1ピリオド、岡山側のミス突破形で滋賀がテンポのいい水球を展開していただけたに、そこでの失点がGKセーブからという形が典型的となった。

高校生世代からすれば小さいボールでシュートを打ちたくなる傾向が強まるが、そこを我慢してディフェンスを崩してからシュートという意識を両チームともにもう少し高めておかないと、高校生レベルではボールサイズの関係からそこまでシュートは容易ではなくなる。そのあたりも踏まえた攻防を意識し、さらなる上位を狙ってほしいところ。